

地域住民の融和と快適環境実感都市の実現を



西条市長
伊藤宏太郎

新年明けましておめでとうございます。謹んで初春の御祝詞を申し上げますとともに、皆様の御健勝と限りない御清福を、心からお祈り申し上げます。

さて、年頭にあたり、過ぐる一年を顧みますと、台風や地震等の相次ぐ天災によりまして、多くの尊い人命が失われるなど、当市をはじめ全国各地に、未曾有の被害がもたらされました。

まさしく私たち人間が、自然の猛威を思い知らされた一年であり、被災された多くの市民の皆様には、改めてお見舞いを申し上げます。

そのような災禍に見舞われた旧年ではありましたが、私たち西条市民にとりましては、新しいふるさとの歴史のページが開かれた、輝かしい一年でもありました。

皆様も御存知のとおり、昨年十一月一日に二市二町が合併しまして、約五百平方キロメートルという市域面積と、約十一万七千人の人口を擁する、新しい「西条市」が誕生しました。

また、新「西条市」は、五千八百億円を超える製造品出荷額と、生産量日本一の愛宕柿や裸麦、春の七草などの様々な農産物の宝庫であります約五千四百ヘクタールの経営耕地といった、いずれも県下第一位の規模を誇る農工業基盤も

併せ持つこととなり、名実ともに四国最大級の産業都市へと変貌を遂げるに至りました。

近年、地方分権の推進を目指した、いわゆる「三位一体の改革」の進展に伴い、地方自治体に対しては、「自立と自活」の精神、そして、自己責任の原則に基づいた地域づくりが、強く求められることになりました。

新「西条市」という運命共同船は、そのような時代の荒波がうねる大海原へ、いよいよ乗り出しましたが、恵まれた水資源や自然環境など、計り知れない可能性を秘めた新市の「総合力」を十二分に活かすことにより、環瀬戸内圏域に大きな存在感を示す「元気都市」が実現出来るものと、強く確信しております。

そうしたふるさとの繁栄を願う情熱をもって、一日も早い地域住民の融和と、一体感の醸成を推進いたしますとともに、元氣あふれる「人づくり」、さらにまた、新市の活力を生み出す「しくみづくり」に積極的に取り組みまして、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に邁進して参る所存であります。

本年もどうかこのうえながらの御支援をお願いし、皆様の益々の御多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

平成十七年元旦